

News release

スイス・リーのシグマ調査「2014年の世界の保険」: 先進国市場の業績回復が保険業界の伸びを押し上げる

- 2014年の世界の生命保険料収入は4.3%¹の実質増益となり、金融危機以前の平均を上回る²
- 損害保険料収入は、主に先進国市場平均の改善が続いたことを背景に2014年は2.9%増
- 収益性は、生命保険で昨年若干改善したものの、損害保険の引受成績はプラスながら平均でわずかに減少
- 生命保険料収入は2015年も先進国と新興国の両市場でさらに伸びる見込み; 損害保険料収入の伸びは新興国では強いものの、先進国市場では伸び悩む公算

チューリッヒ、2015年6月24日 – スイス・リー・グループ(以下、「スイス・リー」)の最新のシグマ調査によると、経済環境の改善はわずかであったものの、世界の保険業界は2014年に勢いを取り戻したことが分かりました。

前年に伸び悩んだ元受保険料収入の合計は、2014年度から3.7%増の4兆7780億米ドルとなりました。生命保険セクターは保険料収入が2013年に1.8%減となった後、4.3%増とプラス成長に転じました。一方、損害保険料収入の伸びは2.7%から2.9%に上昇しました。今回の業界全体にわたる回復基調でみられる明らかな特徴は、先進国市場における著しい業績の改善です。

先進国市場が生命保険料収入を押し上げる

生命保険セクターでは、保険料収入の伸びに大きな地域差がみられました。例えば、オセアニアでは非常に強い伸びをみせた他、西欧と日本でも堅調な業績となり、依然としてマイナス成長から復調していない北米の業績を相殺してもなお上回る結果となりました。新興国市場では生命保険料収入が6.9%伸び、2013年の3.6%から改善しました。この増収は主に中国がもたらしたもので、ネット販売や銀行窓販など、新たな販売チャネルが保険料収入の増加を後押ししました。一方、他の新興国においては保険料収入の伸びが概ね減速した他、減収となった国もありました。

Media Relations, Zürich
Telefon +41 43 285 7171

Daniel Staib, Zürich
Telefon +41 43 285 8136

Mahesh Puttaiah, Bangalore
Telefon +91 80 4900 2127

Thomas Holzheu, Armonk
Telefon +1 914 828 6502

Swiss Re AG
Mythenquai 50/60
Postfach
8022 Zürich

Telefon +41 43 285 2121
Fax +41 43 285 2999

www.swissre.com
 @SwissRe

¹特に断りがない限り、すべての保険料収入の増加率は実質的な変化(インフレ調整後)を示しています。

²金融危機以前の期間: 2003-2007年。金融危機以後の期間: 2009-2014年

先進国市場では生命保険料収入が 2014 年に 3.8%増加しましたが、2010 以降は成長と縮小の動きの不安定なパターンが続いています。スイス・リーのチーフ・エコノミストであるクルト・カールは次のように述べています。「2014 年には加速したものの、全体として先進国市場の生命保険料収入は 2008 年にボリュームが急減する以前と概ね同水準となっています。2014 年の保険料収入の増加は経済成長率を上回り、先進国市場における保険の普及は拡大していますが、金融危機後の保険料収入の伸び率は危機以前と比べると大幅に減速しています。」

先進国市場の力強い業績の回復が損害保険も後押し

損害保険料の伸びは 2009 年以降徐々に改善しつつありますが、平均ではいまだに金融危機以前の水準に届いていません。損害保険でも、2014 年の世界の保険料収入の増加は先進国市場の業績の大幅な改善に後押しされました。北米の保険料収入は前年比で 2.6%増、ここ数年減収および低迷を続けてきた西欧でも増収(+0.6%)に転じました。

今回のシグマ調査では、2007 年以降の西欧における損害保険料収入の伸び悩みについての特集も組まれています。民間の医療保険料は欧州全域で堅調な伸びが続いており、明るい材料となっています。しかし、特に南部の周辺諸国では保険料の収入の成長が金融危機以降非常に低迷しており、種目別ではカジュアルティー保険(特に自動車)が急速に縮小してきています。これに関し、シグマ調査の共著者であるダニエル・スタイブは次のように述べています。「これまでの 7 年間は、欧州の損害保険市場における今後の業績と比較するベンチマークとして見るべきではありません。経済環境は未だ弱いものの引き続き改善する公算が強く、失業率が低下すれば、自動車を含む損害保険料収入も回復すると思われます」

新興国市場では、2014 年の損害保険料収入は 8.0%という強い伸びとなりました。主な原動力は中国における堅調な増収で、主に自動車、信用・保証、農業の各種目の伸びが寄与しました。またインドでも企業の景況感の改善や経済成長を背景に保険料収入が伸びました。しかし先進国、新興国の両市場においても、金融危機以降の生命保険料の年間平均増収率は今のところ危機以前のペースに届いていません。

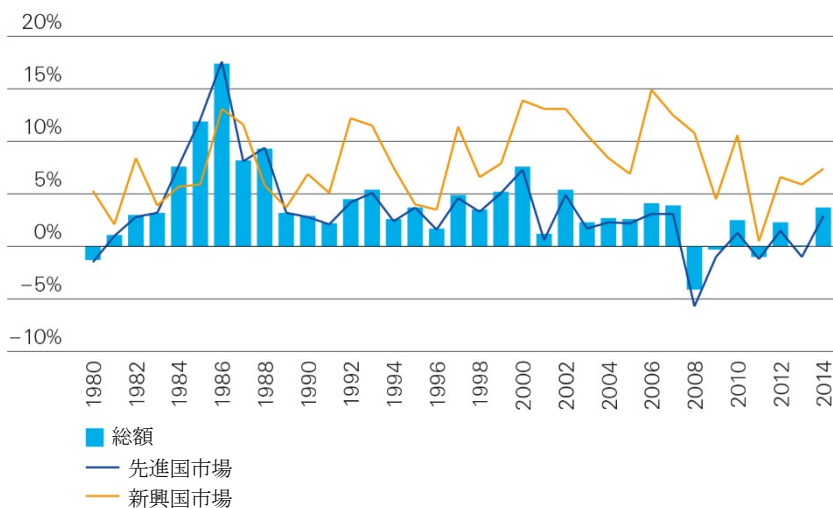
低金利が引き続き収益性に影響

総合的に生命保険セクターの収益性は、株式市場の上昇、保険料収入の伸び、コスト抑制の努力を背景として 2014 年にわずかに改善しました。損害保険部門の引受成績はプラスではありましたが、2013 年よりも若干減少しました。これはクレーム実績がわずかに悪化したこと、そして前年度からの準備金の取り崩しが減少したことが原因でした。また、生命保険および損害保険の両セクターが引き続き低金利に苦戦を強いられており、業界全体の収益は金融危機以前の水準を下回る状態が続いています。

生命保険料収入の伸びは、2015 年も先進国地域では概ね堅調な状態を維持し、新興国市場においては、特に中欧、東欧、中国において増加するものと予想されています。米国の生命保険市場は経済と労働市場の好転に伴い改善する公算が強いものの、西欧では 2014 年の堅調な伸びから減速に転じるものとみられています。先進国市場の損害保険業界は、より緩やかな伸びになる見通しです。保険料率は低水準が続いており、経済成長には回復がみられる一方で引き続き伸び悩んでいます。他方で新興国市場における損害保険料は、引き続き強い伸びが予想されています。

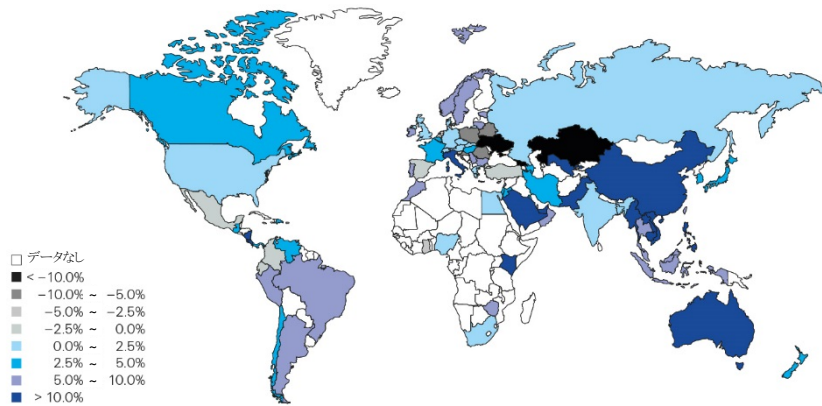
保険料収入はプラスの伸びを示しているものの、業界全体の収益性は 2015 年も再び金融危機以前の水準を下回ることが見込まれています。生命保険セクターの収益性の主要要素である投資収益は、低金利環境の中で引き続き圧迫されるものと思われます。今後も低金利の負担と進行中である規制の変化が継続していくことから、生命保険会社の収益性はこれからも直近では著しい改善を見込むことができません。損害保険も同様に、金利の横ばいまたは低下、さらに準備金取り崩しの減少を原因とする引受成績の悪化が収益の重しとなるものと予想されます。

図 1: 1980 年以降の実質保険料総収入の増加率



注: 保険料の伸びに関するインタラクティブ・オンライン・マップを閲覧するには、www.sigma-explorer.com の地図をクリックしてください。

出所: スイス再保険会社経済調査・コンサルティング部

図 2: 2014 年度世界の実質保険料収入の増加状況


注: 保険料の伸びに関するインタラクティブ・オンライン・マップを閲覧するには、www.sigma-explorer.com の地図をクリックしてください。
出所: スイス再保険会社経済調査・コンサルティング部

表 1: 2014 年の主な保険市場の状況

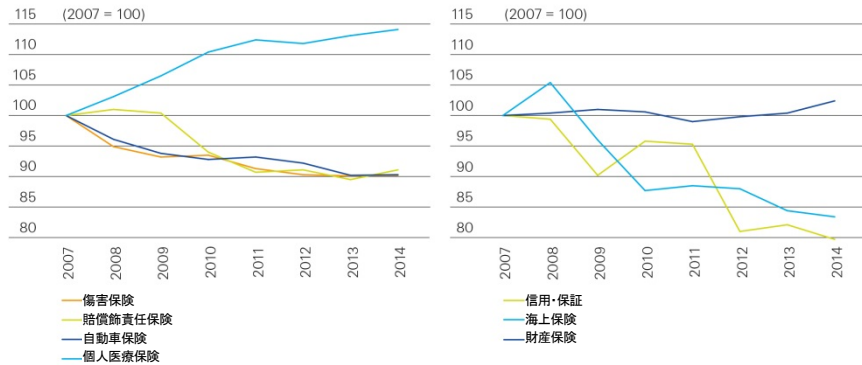
	保険料収入金額による順位		生命保険料		非生命保険料		保険料合計		保険密度 (単位: 米ドル) 2014年	保険浸透度 2014年
	2014年	10億米ドル	2013年比*	10億米ドル	2013年比*	10億米ドル	2013年比			
先進国市場		2233	3.8%	1707	1.8%	3939	2.9%	3666	8.2%	
米国	1	528	-2.5%	752	2.6%	1280	0.4%	4017	7.3%	
日本	2	372	3.3%	108	0.8%	480	2.7%	3778	10.8%	
英国	3	235	0.5%	116	1.7%	351	0.9%	4823	10.6%	
フランス	5	173	6.5%	98	1.0%	271	4.5%	3902	9.1%	
ドイツ	6	118	2.3%	136	1.3%	255	1.8%	3054	6.5%	
イタリア	7	145	22.7%	49	-3.0%	195	15.0%	3078	8.6%	
韓国	8	102	6.3%	58	1.9%	160	4.7%	3163	11.3%	
新興国市場		422	6.9%	417	8.0%	839	7.4%	136	2.7%	
ラテンアメリカ・カリブ諸国		75	3.3%	113	4.7%	188	4.1%	304	3.1%	
ブラジル	13	45	5.4%	40	6.5%	85	5.9%	422	3.9%	
メキシコ	25	13	1.4%	15	-1.4%	27	-0.1%	220	2.1%	
中東・東欧		20	-2.1%	50	-1.2%	70	-1.5%	218	1.9%	
ロシア	27	3	18.9%	23	-0.3%	26	1.5%	181	1.4%	
アジア新興国		275	9.9%	190	14.6%	466	11.8%	126	3.1%	
中国	4	177	13.4%	151	17.4%	328	15.2%	235	3.2%	
インド	15	55	1.0%	15	4.8%	70	1.8%	55	3.3%	
中東・中央アジア		12	4.2%	37	7.2%	49	6.4%	142	1.6%	
アラブ首長国連邦	42	2	12.4%	7	10.3%	9	10.8%	974	2.2%	
アフリカ		46	1.6%	23	1.8%	69	1.6%	61	2.8%	
世界		2655	4.3%	2124	2.9%	4778	3.7%	662	6.2%	

注: *インフレ調整後の実質値

保険浸透度=GDPに対する保険料の割合(%)、保険密度=国民1人あたりの保険料

出所: 監督当局および各国保険協会が公表している数値の確定値および暫定値。スイス再保険会社経済調査・コンサルティング部の予測。

図 3: 西欧における主要事業部門別実質保険料インデックスの変遷



出所: スイス再保険会社経済調査・コンサルティング部

シグマ調査のデータはすべて、1980 年まで遡ることのできる過去のデータを含め、インタラクティブなウェブアプリケーションのシグマエクスプローラ (www.sigma-explorer.com) でアクセスすることができます。図 1 および図 2 はシグマエクスプローラにリンクされています。シグマエクスプローラの使い方については、<https://www.youtube.com/watch?v=3My-BAyCqoM> で動画をご覧ください。

スイス・リーについて

スイス・リー・グループは、再保険、保険、その他保険ベースのリスク移転で世界をリードする大手再保険会社です。直接、またはブローカーを通して、世界中の保険会社、中規模企業から大企業、公共部門のお客様にサービスを提供しています。あらゆる保険種目の標準商品からテイラーメイドの商品までを携え、スイス・リーは、その資本基盤と、事業や発展に付随するリスクを負うことを可能にするための専門知識と革新力を展開しています。1863 年にスイスのチューリッヒで創業されたスイス・リーは、世界約 70 カ所で事業拠点を展開しています。スタンダード&プアーズから「AA-」、ムーディーズから「Aa3」、A.M. Best から「A+」の格付けを取得しています。スイス・リー・グループの持株会社である Swiss Re Ltd の登録株式は、スイス証券取引所のメインスタンダードに準拠して上場しており、ティッカーシンボル SREN で取引されています。スイス・リー・グループに関する詳細は、ウェブサイト (www.swissre.com) をご覧いただくか、または Twitter で (@SwissRe) をフォローしていただきますようお願い致します。